

まちカフェふるさと閉所のお知らせ

ご支援いただきました皆様へ

謹啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます

「まちカフェふるさと」は「お年寄りや障害の方、および母子、若年失業者等が、地域で孤立せず、安心して暮らせる地域を作ってゆく」ことを目的に、平成 25 年開所以来 4 年余にわたり運営してまいりましたが、2017 年 12 月 20 日をもちまして閉所いたすこととなりました。

【プロジェクトが解決しようとした社会的課題】

少子高齢化や不安定雇用により生活に困窮する層が増え続けています。地域コミュニティが希薄化し、孤独死を迎える方もいます。どうしたら、このような潜在する地域のニーズをキャッチできるだろうかと考え、誰もが気軽に相談できる「カフェの形態をとった相談サロン」の運営を始めました。

【活動実績】

- ボランティアによる運営：社会福祉協議会のボランティアセンターと連携し、地域の高齢者や引きこもり経験のある若者等がカフェのスタッフとしてボランティアで参加してきました。地域のなかで役割をもち、支援される側から、する側への転換を支援してきました。
- 介護者支援のサロン：新宿区高齢者福祉課が支援する介護者の家族会「大久保あったかい」のサロンとして 3 年以上にわたって、会場を提供してきました。地域の介護者同士の横のつながりが広がりました。
- まちカフェフォーラムの実施：認知症サポーター養成講座、熱中症対策など暮らしに役立つ学習会を毎月開催し、延べ 48 回のフォーラムを開催してきました。

【事業の成果】

民間で独自に設置した常設型のサロンとして多くの行政関係者、研究者、議員などが視察に訪れ、地域共生型社会のモデル、都市型の地域包括ケアモデルとしてとして取り上げられる機会に恵まれました。こうした取り組みを社会福祉推進事業の研究報告などで政策提言し、空き家活用と住民同士の支え合いをモデルとした事業づくり（地域善隣事業）にも寄与できました。民間が先行的にモデル事業を実施し、普遍性を持つ政策として制度化されてゆく筋道がついたことで、「まちカフェふるさと」は一定の役割を終えたと判断し、この実践で培ったノウハウや経験を、今後は社会へより広く提供・情報発信してゆきたいと思えます。

皆様の長年にわたるご支援に心から感謝申し上げますとともに、皆様の末永いご多幸とご健康をお祈り申し上げまして、略式ながら閉所の挨拶とさせていただきます。